



「R&D」 × 「生産性」

R&D生産性 アンケート集計結果

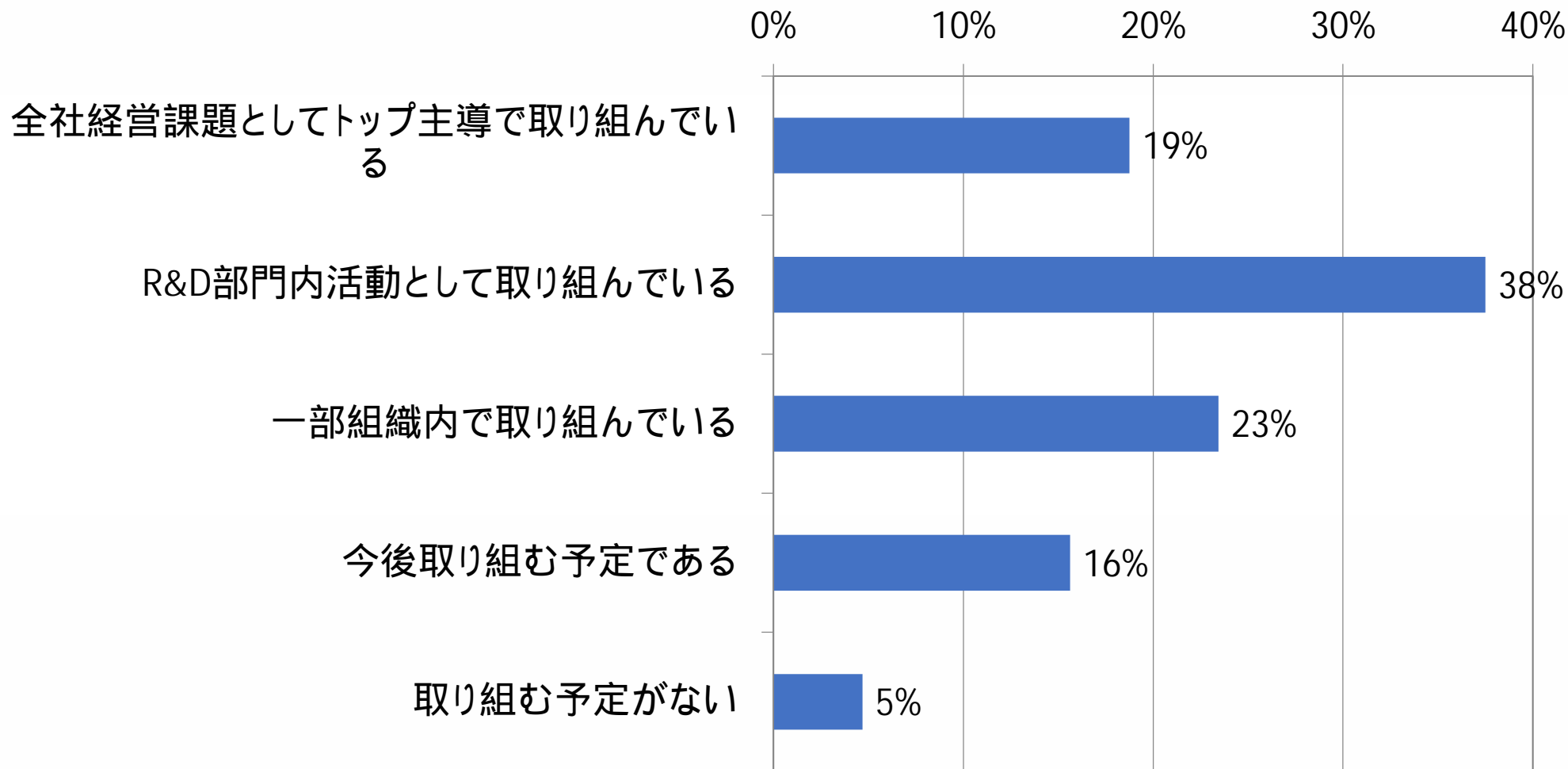
2019年5月24日(金)

株式会社日本能率協会コンサルティング
R&Dコンサルティング事業本部

R & D生産性アンケート結果

1. 生産性向上への取組み状況

生産性向上への取組み状況

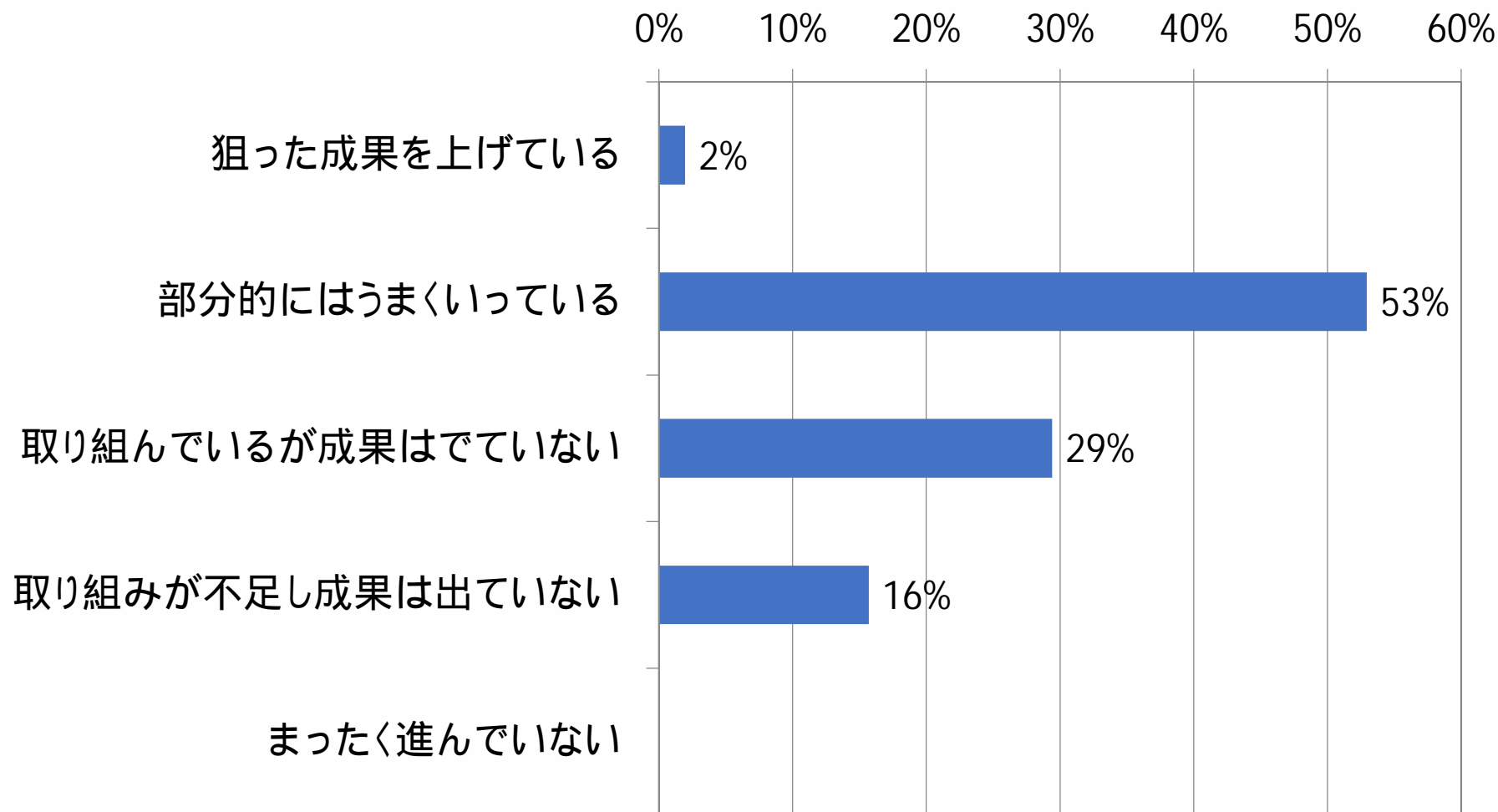


有効回答数: n = 64人

R & D生産性アンケート結果

1. 生産性向上への取組み状況

生産性向上への取組み成果の状況



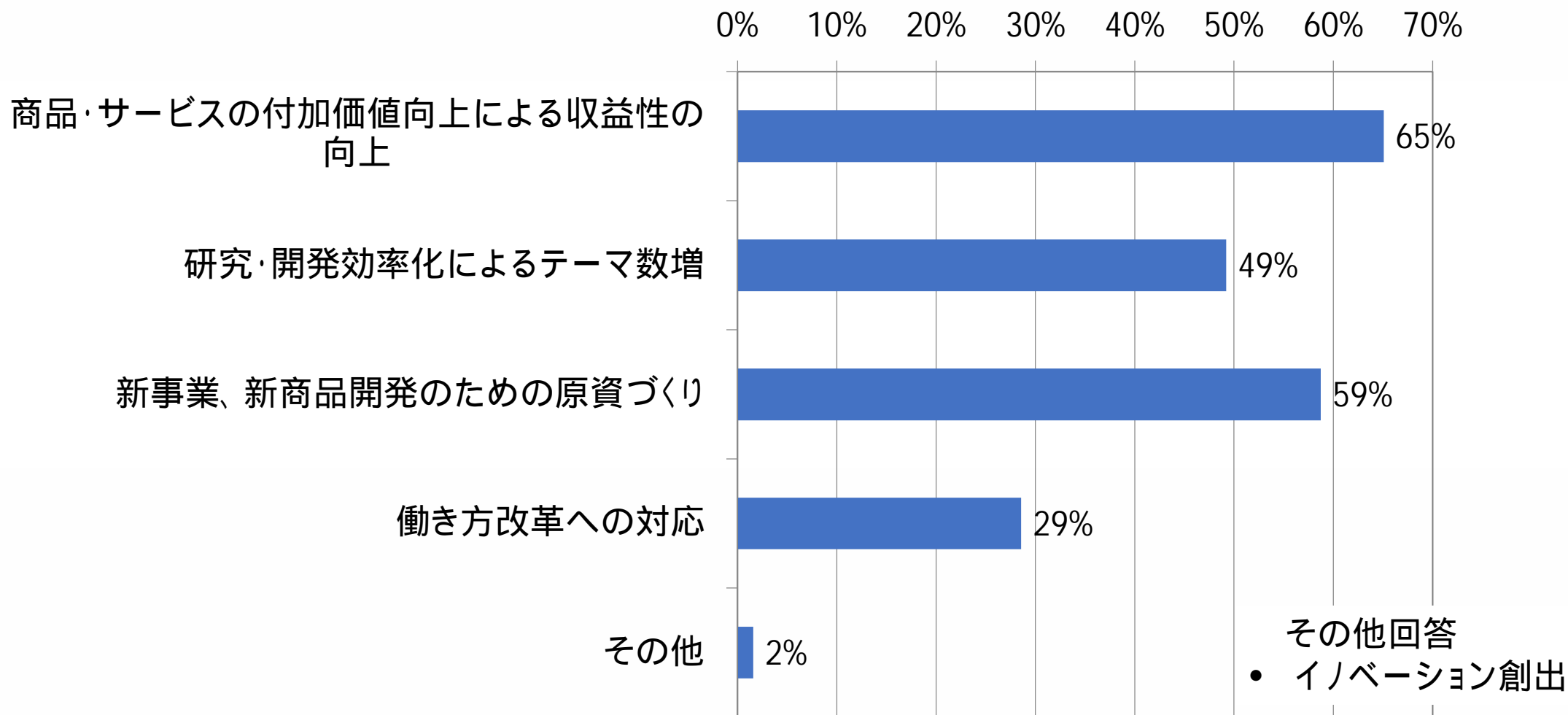
有効回答数:n = 51人

R & D生産性アンケート結果

2. 生産性向上の取組み目的



生産性向上の取組み目的



有効回答数:n = 63人

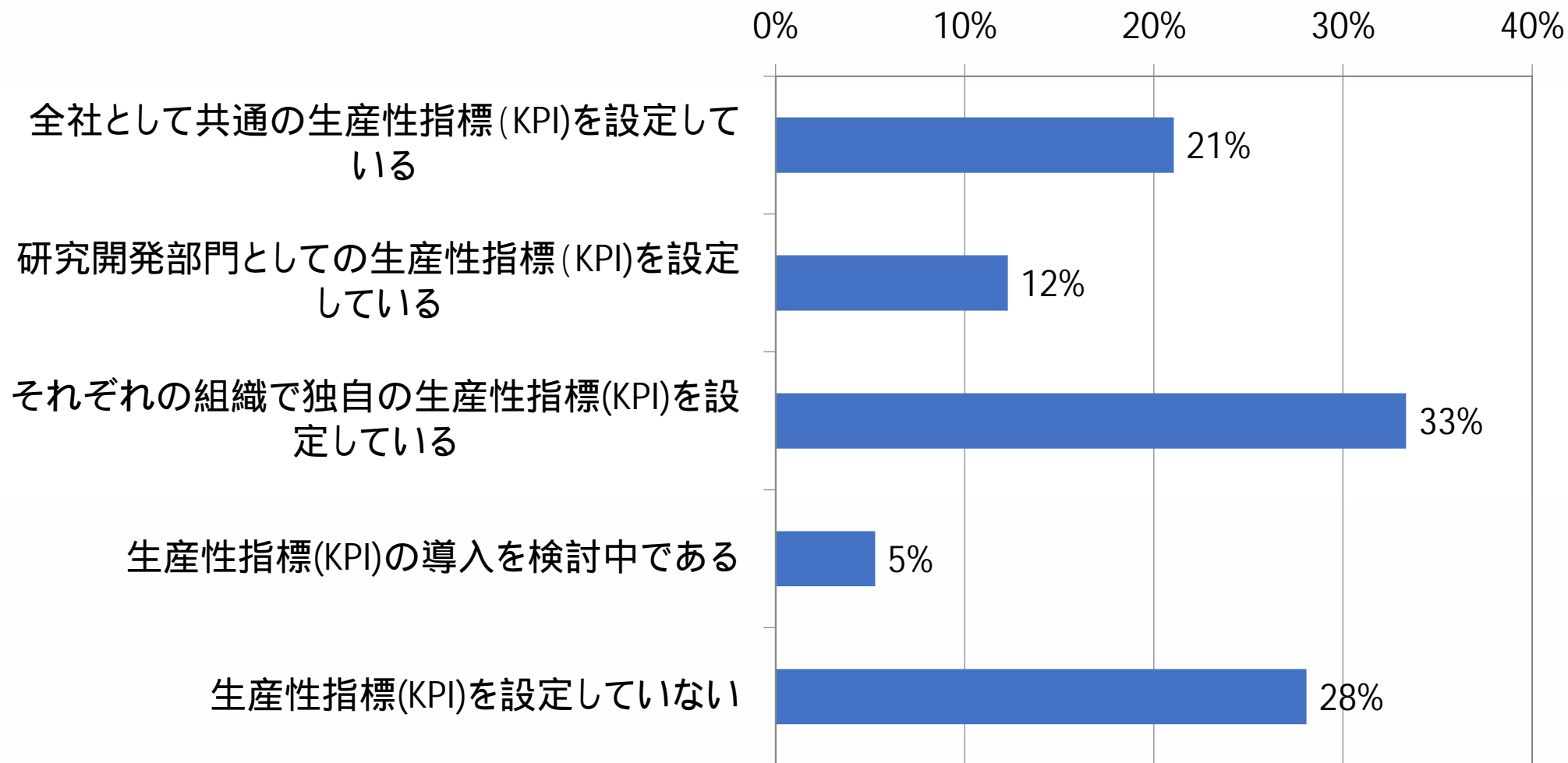
複数回答可のため合計が100%を超える

R & D生産性アンケート結果

3. 生産性指標について



生産性指標(KPI)の設定状況



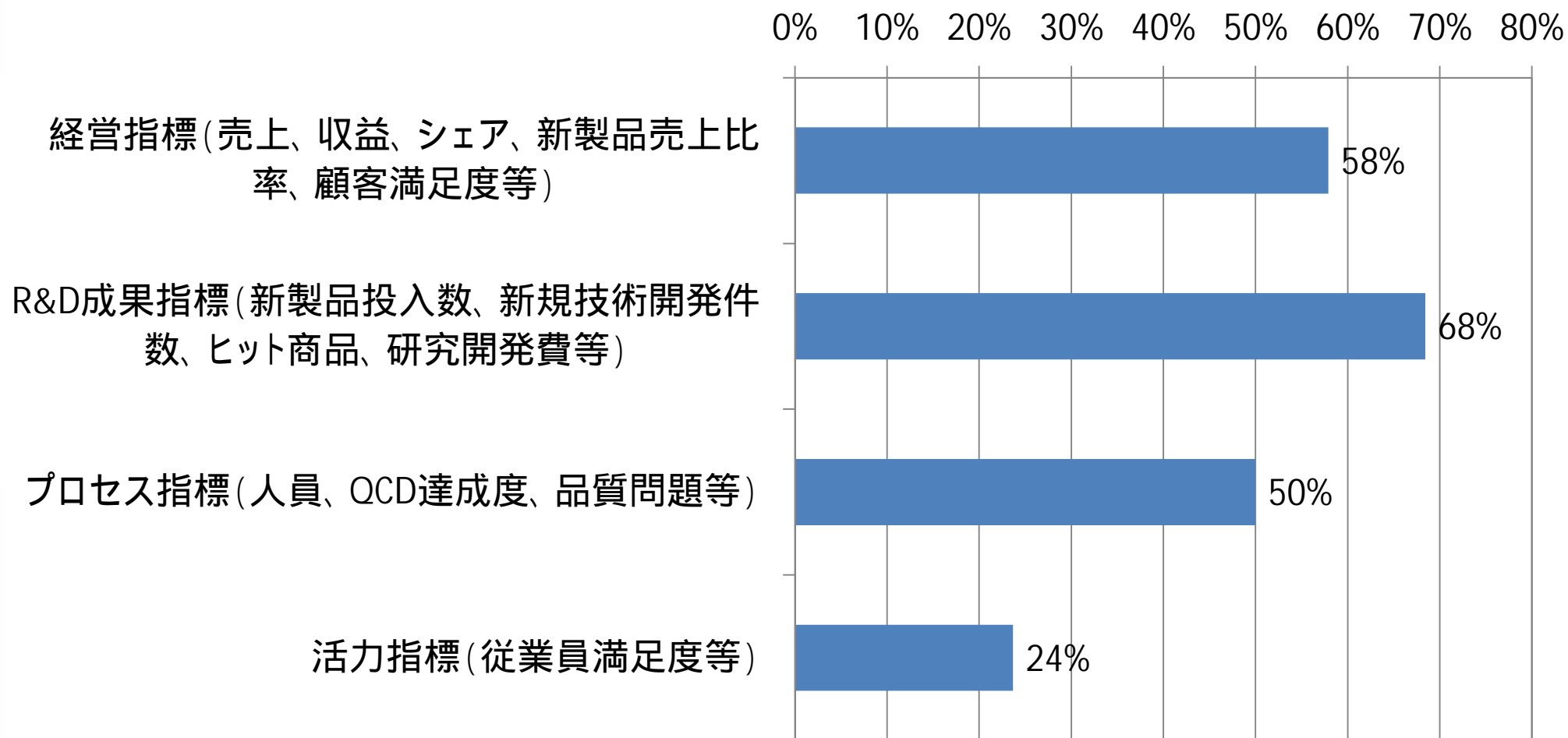
有効回答数: n = 57人

R & D生産性アンケート結果

3. 生産性指標について



設定している指標



有効回答数:n = 38人

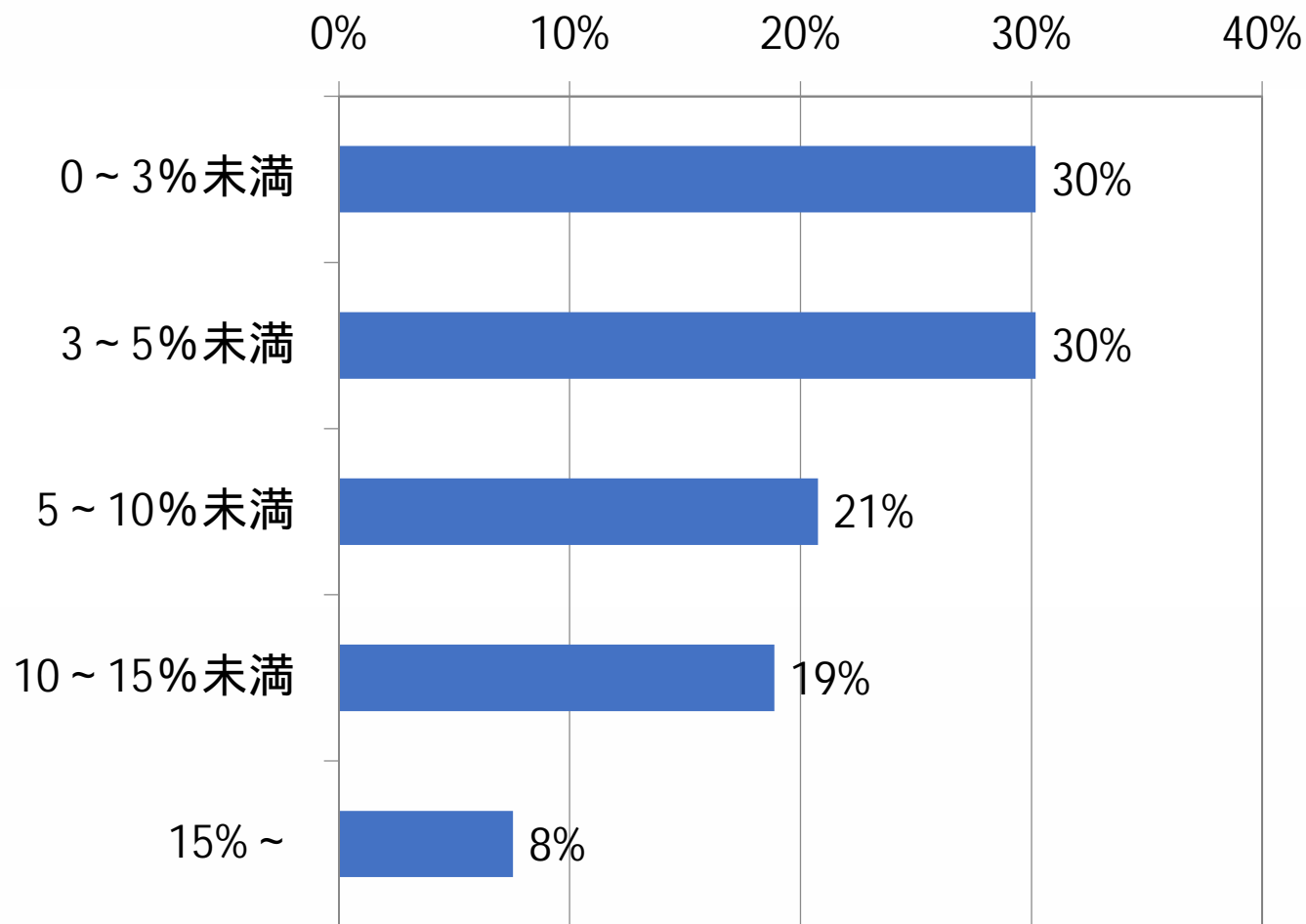
複数回答可のため合計が100%を超える

R & D生産性アンケート結果

3. 生産性指標について



非連続技術・製品に関する研究開発の投入工数比率



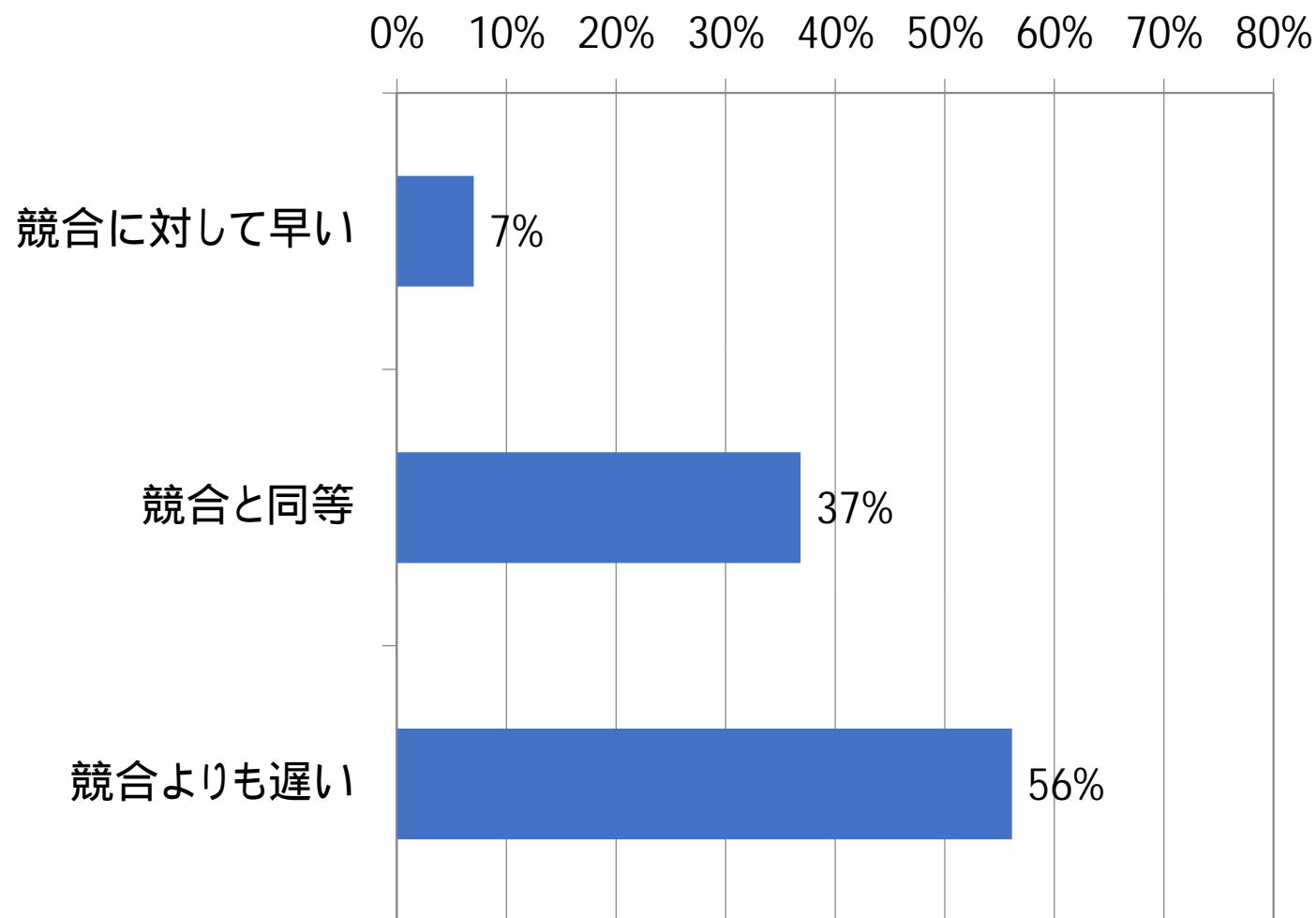
有効回答数:n = 53人

R & D生産性アンケート結果

3. 生産性指標について



従来知識領域の技術・製品の成果実現のタイミング



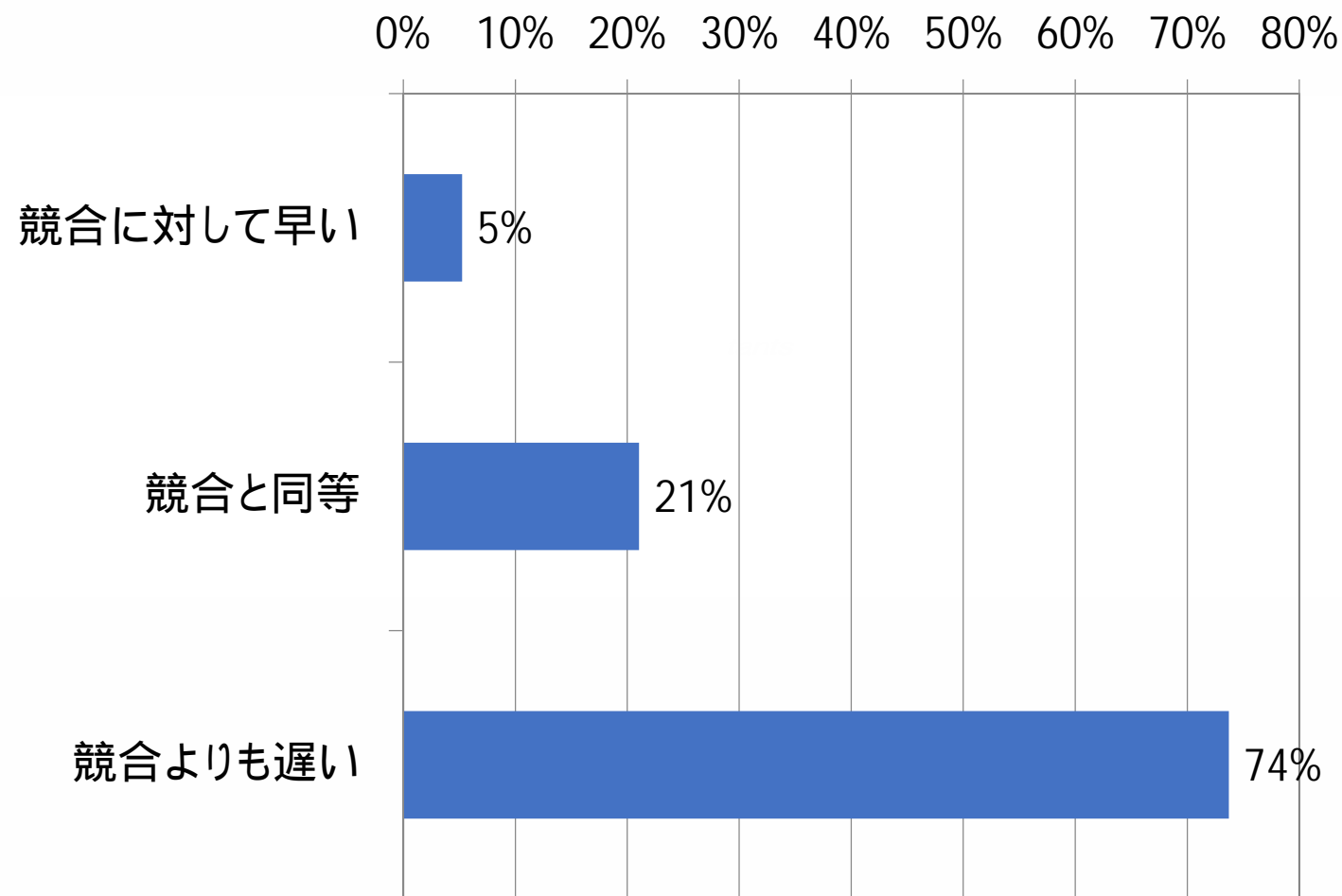
有効回答数:n = 57人

R & D生産性アンケート結果

3. 生産性指標について



非連続技術・製品の成果実現のタイミング



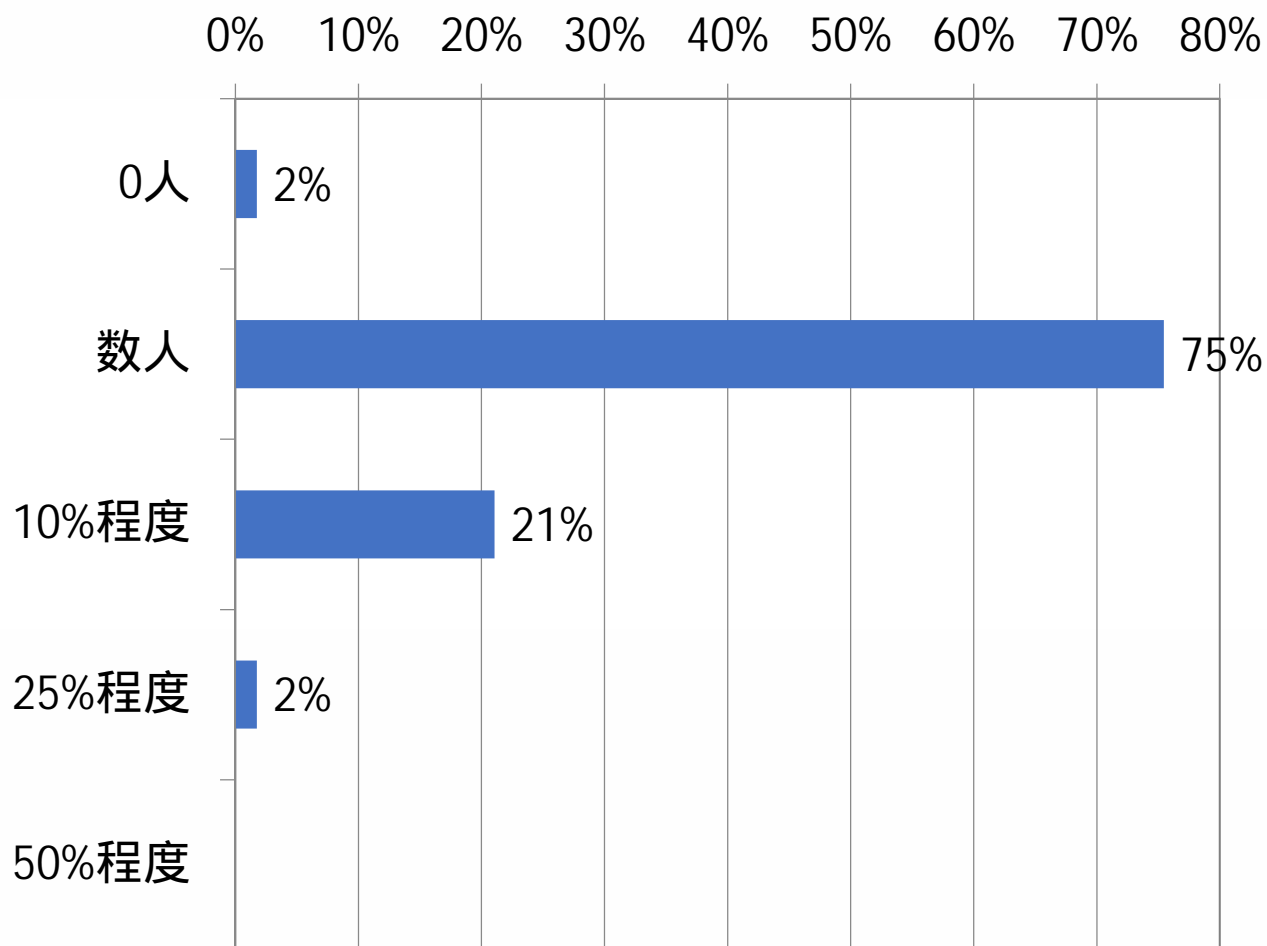
有効回答数:n = 57人

R & D生産性アンケート結果

3. 生産性指標について



WT(ワクワク突き抜け人材)の比率

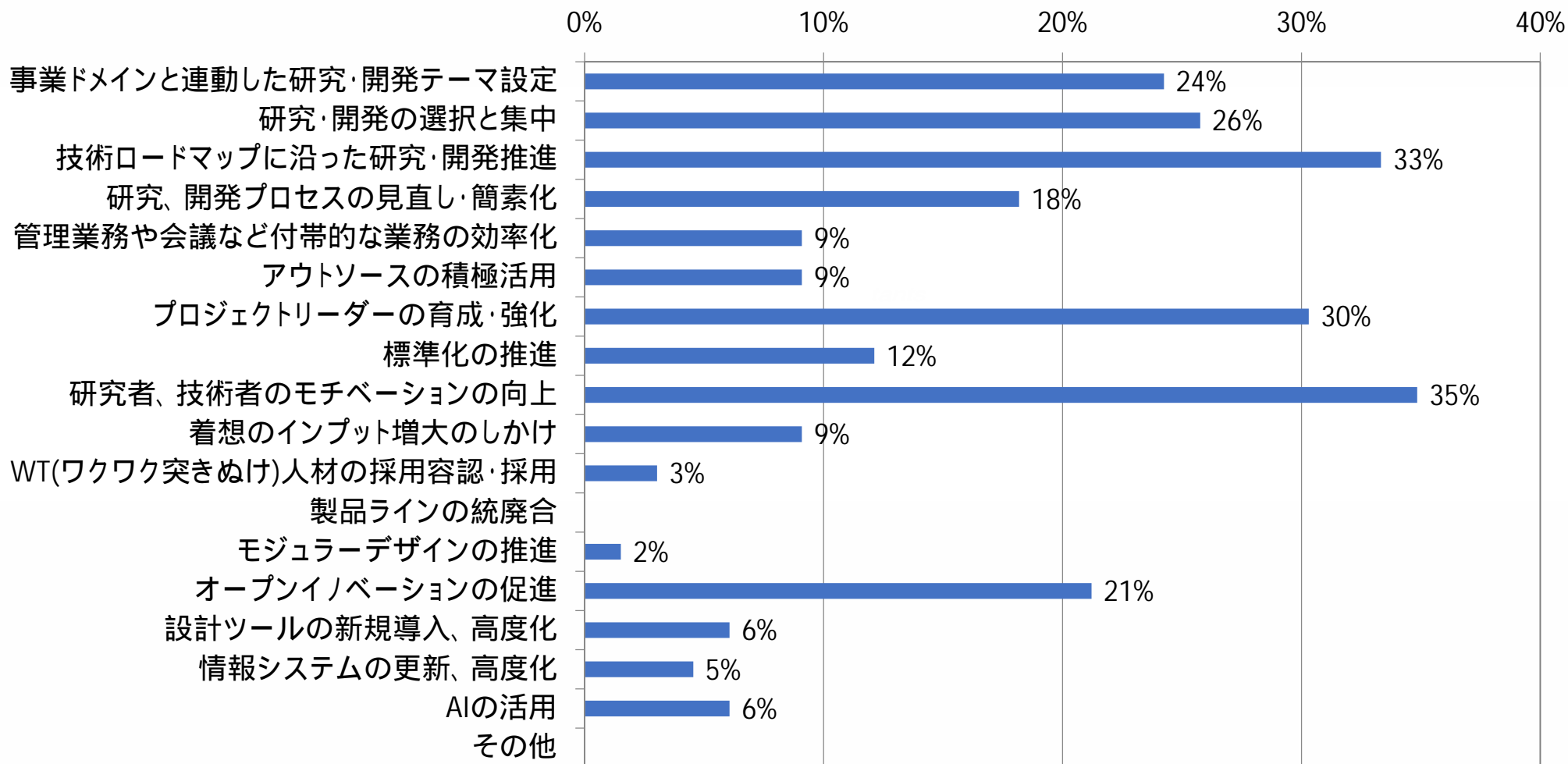


有効回答数:n = 57人

R&D生産性アンケート結果

4. R&D生産性向上に対して特に有効と思われる施策

R&D生産性向上に対して特に有効と思われる施策



有効回答数:n = 66

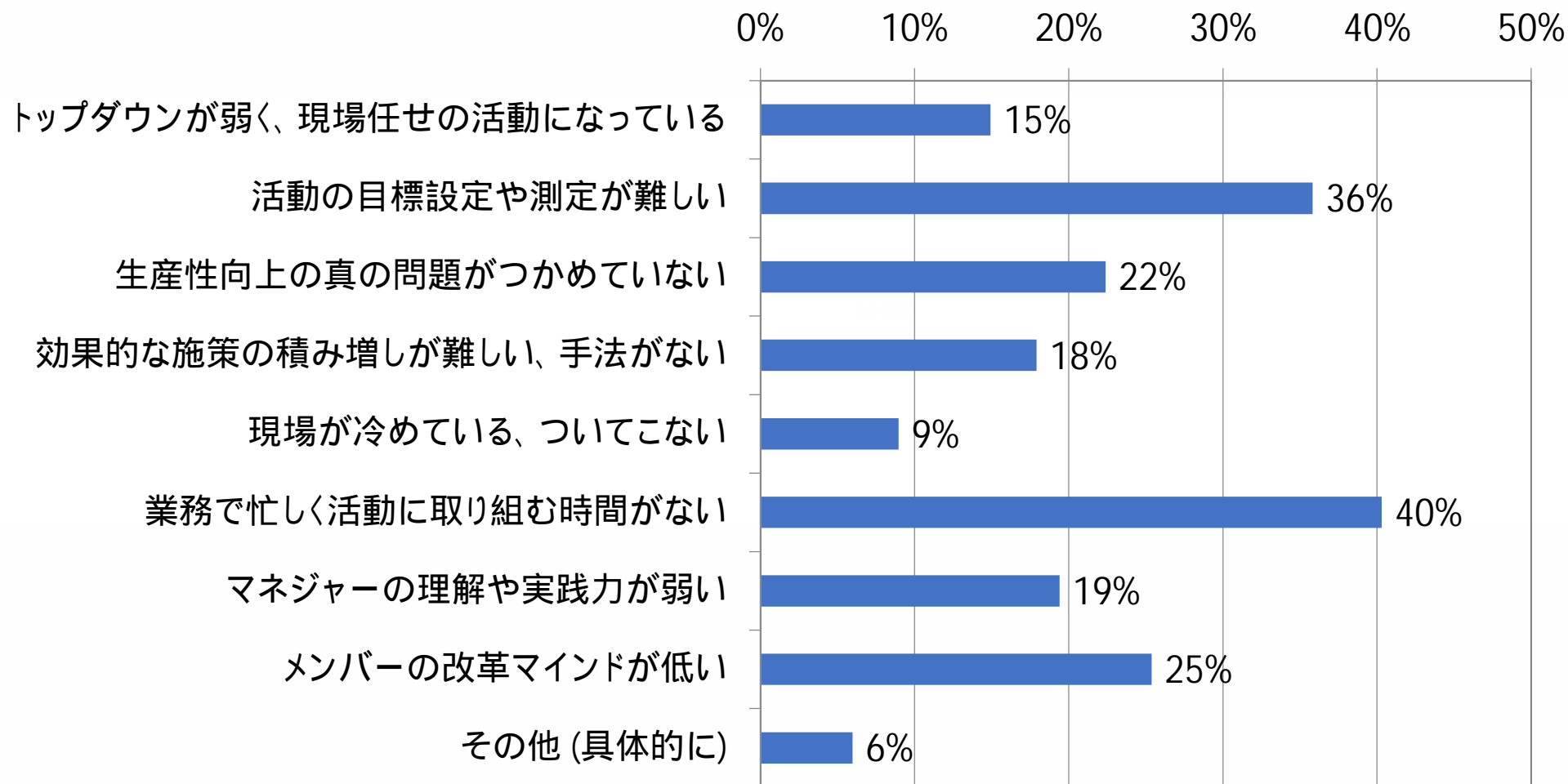
複数回答可のため合計が100%を超える

R & D生産性アンケート結果

5. 生産性向上推進者の悩み



生産性向上推進者の悩みの状況



有効回答数: n = 67

複数回答可のため合計が100%を超える

R & D生産性アンケート結果

5. 生産性向上推進者の悩み



生産性向上推進者の悩みの状況

< 自由回答 >

- イノベーションのジレンマ
- スキル不足
- リソース不足の中での効率的な新規人材の育成
- 生産性の定義、KPIを設定ができてなく、どのような指標を設定すればいいか見当たらない。また、それらの基礎データとなる計測が出来てなく、そこから運営を変えていかないといけない。

(参考)

アンケート質問票

R & D生産性アンケート質問票



あなたの会社・事業所のR&D生産性向上についてお答えください

1. 取り組み状況について

(1) 取り組みの状況

- 全社経営課題としてトップ主導で取り組んでいる
- R&D部門内活動として取り組んでいる
- 一部組織内で取り組んでいる
- 今後取り組む予定である
- 取り組む予定がない

(2) 成果の状況（上記 1～4と回答した方表記方法工夫必要）

- 狙った成果を上げている
- 部分的にはうまくいっている
- 取り組んでいるが成果はでていない
- 取り組みが不足し成果は出ていない
- まったく進んでいない

2. 取り組みの目的について（あてはまるもの全て？）

- 商品・サービスの付加価値向上による収益性の向上
- 研究・開発効率化によるテーマ数増
- 新事業、新商品開発のための原資づくり
- 働き方改革への対応
- その他（ ）

3. 生産性指標について

(1) 生産性指標(KPI)を設定していますか

- 全社として共通の生産性指標 (KPI)を設定している
- 研究開発部門としての生産性指標 (KPI)を設定している
- それぞれの組織で独自の生産性指標(KPI)を設定している
- 生産性指標(KPI)の導入を検討中である
- 生産性指標(KPI)を設定していない

(2) 設定している指標を選択ください（上記で1～3と回答した方）

（複数回答可）

- 経営指標(売上、収益、シェア、顧客満足度等)
- R&D成果指標(新製品投入数、新規技術開発件数、ヒット商品、研究開発費等)
- プロセス指標(人員、OCD達成度、品質問題等)
- 活力指標(従業員満足度指標等)

(3) R&D生産性の成果に関して以下の質問に回答下さい

非連続技術・製品に関する研究開発の投入工数比率

- 0～3%未満
- 3～5%未満
- 5～10%未満
- 10～15%未満
- 15%～

従来領域の技術・製品の成果実現のタイミング

- 競合に対して早い
- 競合と同等
- 競合よりも遅い

非連続技術・製品の成果実現のタイミング

- 競合に対して早い
- 競合と同等
- 競合よりも遅い

WT(ワクワク突き抜け人材)の比率

- 0人
- 数人
- 10%程度
- 25%程度
- 50%程度

R & D生産性アンケート質問票



4. R&D生産性向上のための取り組み施策の有効度

下記の取り組み中で、R&D生産性向上に対して特に有効と思われる施策を3つ選んでください

- 事業ドメインと連動した研究・開発テーマ設定
- 研究・開発の選択と集中 (プロジェクト数の絞り込み、リソース集中化等)
- 技術ロードマップに沿った研究・開発推進
- 研究、開発プロセスの見直し・簡素化 (開発管理規程の使い分け、部門間の連携等)
- 管理業務や会議、資料作成など付帯的な業務の効率化
- アウトソースの積極活用
- プロジェクトリーダーの育成・強化
- 標準化の推進 (設計標準・ノウハウの共有・技術伝承等)
- 研究者、技術者のモチベーションの向上 (キャリア面談、表彰制度、15%ルール、社内ベンチャー立上支援等)
- 着想のインプット増大のしかけ (社内技術交流会、外部交流会、大学への出向、留学等)
- WT(ワクワク突きぬけ)人材の容認・採用
- 製品ラインの統廃合
- モジュラーデザインの推進
- オープンイノベーションの促進 (コーポレートベンチャリング、国立研究所・大学等との連携等)
- 設計ツールの新規導入、高度化 (3dCAD、シミュレーション等)
- 情報システムの更新、高度化 (PLM、ナレッジマネジメントシステム、プロジェクトの可視化、web会議等)
- AIの活用 (故障解析、顧客ニーズ分析等)
- その他

R & D生産性アンケート質問票



5. 推進者の取り組みの悩み(複数選択可)

- トップダウンが弱く、現場任せの活動になっている
- 活動の目標設定や測定が難しい
- 生産性向上の真の問題がつかめていない
- いろいろやってきており、効果的な施策の積み増しが難しい、手法がない
- 現場が冷めている、ついてこない
- 業務で忙しく活動に取り組む時間がない
- マネジャーの理解や実践力が弱い
- メンバーの改革マインドが低い
- その他()

6. プロフィール

- 会社名・事業所名()
- 業種
- 職種
- 職位
 - 一般
 - 課長クラス
 - 部長クラス
 - 役員クラス
- R&Dの人員規模
 - 1~10名
 - 11~50名
 - 51~100名
 - 101~300名
 - 301~1000名
 - 1001名以上

業種分類

- 自動車等輸送用機器
- 電機・家電
- 精密機器
- 機械・重工業
- 電子部品
- 素材・化学・石油
- 鉄鋼・非鉄金属・金属製品
- 食品
- 医薬品
- 建設
- サービス
- 通信
- その他の製造業
- 情報処理/ソフトウェア/SI
- その他

職種分類

- 経営企画
- 研究
- 商品企画・デザイン
- 開発・設計
- 生産技術
- 調達・購買
- 製造・工場・生産管理
- 品質保証・品質管理
- 営業
- 人事・教育
- その他



JMAC
株式会社 日本能率協会 コンサルティング